

審査委員 長田 喜樹

建物利用者や来街者、隣接タワーマンションの居住者など、様々な立場の人々が、このビルを見る、あるいはビルから見る際の視点を意識し、きめ細かい配慮を加えた計画である。

街路に面した外壁面には、出幅の異なった庇を混用し、ガラスの縦フィンを加えて、均質となりがちなオフィスビルのファサードを表情豊かなものとしている。この外壁デザインは、隣接マンションのバルコニーの水平ラインに対して、縦方向の線を強調して街区単位での壁面意匠に変化をもたらすだけでなく、縦フィンに併設された換気窓によって自然換気を促すほか、ビル風も低減させるというマイクロな環境工学上の工夫も加えられている。一方、隣接マンションに面する壁面は、ほぼ無開口として居住者・建物利用者間の視線トラブルを防止しているが、外壁の塗装色やテクスチャをソフトなものとして巨大壁面の圧迫感を低減していることも見逃せない。

内部空間では、メインのエントランスがエスカレータを経た2階に置かれたことで、けやき通りの街路樹と、パシフィコ横浜の低層建屋越しに横浜港内の景観を見渡すという、緑と開放感に溢れた導入部となっている。3階から14階のオフィスフロアでも、同様の眺望を楽しめることはいうまでもない。見る一見られる関係に関しては、オフィスフロアのエレベーターホールの開口部ガラス窓に、偏光処理を施すなど細やかな処理も施されている。

テナントの中には3層分を利用する国内最大級のシェアオフィスが入居しているせいか、カジュアルな服装のワーカーも多い。ランドマークタワーやクイーンズスクエア等の巨大ビルに隣接する一方、港に連なるオープンスペースに面した街区の角という立地は、開放性に富む。ここで働くこと、ここを訪れることが心地よいものとなり、ことさらな差異化を図らなくとも、自ずと個性の滲み出るビルとなっていくことを期待したい。